

ピロリ菌について

中央診療所医師 釣田健太郎

新年明けましておめでとうございます。皆様が健やかに新春を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回は「ピロリ菌」についてお話しします。ピロリ菌は胃の粘膜に住みつく細菌で、慢性胃炎や胃潰瘍、さらに胃がんの原因の一つとされています。この菌に感染しても自覚症状がない場合が多く、知らないうちに感染して放置していることが少なくありません。感染経路としては、汚染された食べ物や水、感染者との口移しや食器の共有などが挙げられます。

ピロリ菌は、世界保健機関（WHO）により「発がん性のある細菌」として分類されています。特に胃がんとの関連が強く、ピロリ菌に感染していると胃がんのリスクが高まることが分かっています。ただし、感染したからといって必ずしも全員が胃がんになるわけではありません。発症には生活習慣や遺伝的要因など、さまざまな要素が関係してきます。

ピロリ菌の感染を確認する方法としては、胃カメラ検査、血液検査、便検査などがあります。特に胃カメラ検査は、ピロリ菌の有無を確認し、治療を進めるためには重要な手段です。もしピロリ菌に感染していた場合、「除菌治療」と呼ばれる治療を行います。これは抗生物質と胃酸の分泌を抑える薬を組み合わせる治療法で、成功すれば再感染のリスクは非常に低くなります。

ピロリ菌を除去することで、胃潰瘍の再発防止や胃がんの予防効果も期待できます。胃の不調が続く場合や、胃がんリスクを下げたい方は、定期的な健康診断や胃カメラ検査を受けることをお勧めします。早期発見・早期治療が、健康を守るための第一歩です。

今回はピロリ菌についてお話しましたが、ご自身の胃の健康が気になる方は、ぜひ診療時にご相談ください。